

- 問1 中世から近世にかけての武家政権の変遷について述べた文として、歴史的な事実関係が正しいものはどれですか。(2024年 神奈川県公立入試 類似)
- 源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。
  - 豊臣秀吉が全国を統一して地頭の権限を全国に広めた後、それに反発した後鳥羽上皇が承久の乱を引き起こした。
  - 承久の乱によって鎌倉幕府が滅亡した結果、戦国時代の混乱が始まり、その終焉とともに源頼朝が守護・地頭の設置を認めさせた。
  - 東大寺の再建を通じて武士の勢力交代が進む中、地頭の設置よりも先に豊臣秀吉による太閤検地が行われ、幕府の支配権が確立した。
- 問2 鎌倉時代を代表する彫刻作品のうち、東大寺南大門に安置され、筋骨隆々とした逞しい肉体と憤怒の表情、そして躍動感あふれるポーズが特徴的な一対の像の名称として正しいものはどれか。(2026年 茨城公立入試 類似)
- 金剛力士像
  - 阿修羅像
  - 弥勒菩薩像
  - 鎌倉大仏
- 問3 ある歴史博物館では、展示室が時代の流れに沿って並んでいます。第1展示室が原始・古代、第3展示室が江戸時代を中心とした近世、第4展示室が近代・現代という構成になっているとき、鎌倉幕府や室町幕府の政治を扱う第2展示室に割り振られる時代区分として最も適切な名称を選びなさい。(2014年 愛媛公立入試 類似)
- 古代
  - 中世
  - 近世
  - 近代
- 問4 承久の乱後の鎌倉幕府の政治体制について、幕府の組織構造や権力の仕組みを説明した文として最も適切なものを選びなさい。(2024年 茨城県公立入試 類似)
- 北条氏が就く執権が将軍を補佐し、幕府の政治の実権を握る体制が強化された。
  - 将軍の下に管領が置かれ、有力な守護大名が交代で政治を統括する連合政治が行われた。
  - 幕府の最高職として老中が置かれ、京都に配置された京都所司代とともに西国を支配した。
  - 律令制度に基づく太政官制が採用され、幕府の役職と朝廷の官位が完全に統合された。
- 問5 香川県坂出市には、保元の乱で敗れて讃岐に流された崇徳上皇の陵墓である白峯陵があります。この崇徳上皇の歌も収められている『新古今和歌集』の編纂者として、後鳥羽上皇に選ばれた人物は誰ですか。(2021年 香川公立入試 類似)
- 紀貫之
  - 藤原定家
  - 柿本人麻呂
  - 山上憶良
- 問6 鎌倉時代、源平の争乱によって焼失した東大寺の再建において、僧侶の重源(ちょうげん)らが取り入れた建築様式に関する説明として正しいものを選びなさい。(2023年 滋賀公立入試 類似)
- 当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様(だいぶつよう)と呼ばれる力強い構造で再建された。
  - 奈良時代の唐招提寺などに見られる唐の様式を忠実に再現し、対称性を重視した優美な姿で再建された。
  - 平安時代の貴族の住宅に見られる寝殿造の様式を寺院建築に応用し、池と調和する形で再建された。
  - 元(モンゴル)の建築技術を導入し、石造りの基盤の上に大規模な回廊を持つ形式で再建された。
- 問7 明治時代の近代化において、西洋の技術や新しい制度は、多くの場合、首都となった東京などの東日本から導入され、そこから全国へと広がっていきました。このような文化や技術の伝播について述べた文として、正しいものはどれですか。(2025年 静岡公立入試 類似)
- 1872年に新橋・横浜間で日本初の鉄道が開通した後、順次、大阪・神戸間など西日本や地方都市へと路線が拡大された。
  - 1873年に徴兵令が施行されると、まず東日本の農民が兵役に従事し、その数年後に西日本でも制度が適用された。
  - 文明開化の影響で普及した「ざんぎり頭」や「牛鍋」は、京都の伝統文化を重んじる東日本へと逆輸入される形で広がった。
  - 学制の普及により、まず東北地方で小学校の就学率が100%に達し、その後、東京や大阪などの都市部へ広がった。
- 問8 マルコ・ポーロが著した『世界の記述(東方見聞録)』において、当時の日本について述べられた記述として正しいものはどれですか。(2020年 埼玉県公立入試 類似)
- 王の宮殿は純金でできており、屋根や床も金で敷かれているほど豊かな島国であると紹介された
  - 免罪符の販売に対して宗教改革が起こり、キリスト教の新しい宗派が誕生した地として紹介された
  - ローマ帝国が東西に分裂した影響を受け、独自の仏教文化が開花している国として紹介された
  - 種子島に鉄砲が伝来したことで、戦国大名による武力抗争が激化している様子が紹介された
- 問9 鎌倉時代初期、源平の争乱によって焼失した東大寺を再建するため、僧の重源が中国から伝わった新しい建築様式を取り入れて完成させた、力強く豪壮な門を何と称するか。(2022年 岡山公立入試 類似)
- 東大寺南大門
  - 平等院鳳凰堂
  - 唐招提寺金堂
  - 法隆寺中門
- 問10 源頼朝が全国に守護と地頭を設置することを朝廷に認めさせた経緯と、その役割について説明した文として最も適切なものを選びなさい。(2021年 岩手県公立入試 類似)
- 対立した弟の源義経を捕らえることを名目として設置し、守護は国ごとに置かれて軍事や警察の役割を、地頭は荘園などに置かれて年貢の徴収などの役割を担った。
  - 平氏を倒すための軍事費を確保するために設置し、守護は農民の教育を、地頭は外国との貿易の管理を主な役割とした。
  - 元(モンゴル)の侵攻に備えるために設置し、守護は北九州の防衛を、地頭は武器の製造と兵士の招集を主な役割とした。
  - 朝廷がもつ政治の実権を武士に戻すために設置し、守護は京都の警備を、地頭は天皇の身の回りの世話を主な役割とした。
- 問11 12世紀末の日本において、源頼朝が朝廷から許可を得て全国に設置した役職のうち、主に「国」ごとに置かれ、国内の軍事や警察、御家人の統制などの役割を担った役職の名前として正しいものを答えなさい。(2026年 広島公立入試 類似)
- 守護
  - 地頭
  - 国司
  - 郡司
- 問12 13世紀後半、モンゴル帝国(元)のフビライ・ハンが日本に対して服属を要求してきた際、これを拒否して2度にわたる大規模な襲来(元寇)に対し、御家人を指揮して防衛にあたった鎌倉幕府第8代執権は誰か、次の中から選びなさい。(2023年 大分県公立入試 類似)
- 北条時宗
  - 北条泰時
  - 北条高時
  - 足利尊氏
- 問13 鎌倉時代、太鼓などを叩きながら念仏を唱えて踊る「踊り念仏」を行い、全国を巡って民衆に教えを広めた僧侶は誰ですか。(2021年 香川公立入試 類似)
- 一遍
  - 親鸞
  - 日蓮
  - 道元

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、承久の乱を経て幕府の権力は西国へ拡大し、のちに豊臣秀吉が北条氏を滅ぼして天下統一を成し遂げた。	日本の武家政権は、12世紀末に源頼朝が鎌倉幕府を開いたことに始まります。1221年の承久の乱は幕府の支配力が全国化する重要な転換点となりました。その後、室町幕府や戦国時代を経て、16世紀末に豊臣秀吉が小田原の北条氏を滅ぼすことで天下統一を達成しました。承久の乱は豊臣秀吉の時代よりも約360年以上前の出来事であり、時代順序を正確に把握することが重要です。
問2	答え 1 金剛力士像	鎌倉時代には、武士の台頭を背景とした力強く写実的な文化が栄えました。東大寺南大門に設置された金剛力士像は、運慶や快慶らによってわずか69日間で制作されたと伝えられており、当時の武士の気風を象徴する、迫力ある造形美を示しています。
問3	答え 2 中世	日本の歴史において、12世紀末の鎌倉幕府の成立から、16世紀後半の室町幕府の滅亡までの期間を指します。貴族による統治が中心だった古代と、兵農分離や鎖国が行われた近世の間に位置し、武士が政治の主導権を握り始めたことが大きな特徴です。
問4	答え 1 北条氏が就く執権が将軍を補佐し、幕府の政治の実権を握る体制が強化された。	承久の乱を経て幕府の権力が盤石になると、北条氏が世襲する「執権」が政治の主導権を握る執権政治が確立されました。中央組織として、軍事を担う侍所、財政や政務を担う政所、裁判を担う問注所などが整備され、実務的な統治体制が敷かれました。
問5	答え 2 藤原定家	後鳥羽上皇は自らも和歌に精通しており、当代随一の歌人であった藤原定家らを撰者に任命して『新古今和歌集』をまとめさせました。この和歌集には、保元の乱で後白河天皇と対立して敗れた崇徳上皇の歌も収められており、平安末期から鎌倉初期にかけての激動の時代背景を反映した内容となっています。
問6	答え 1 当時の中国の王朝である宋の様式を取り入れ、大仏様（だいぶつよう）と呼ばれる力強い構造で再建された。	鎌倉時代は武士が台頭した時代であり、文化の面でも力強さや写実性が重んじられました。東大寺南大門の再建にあたっては、僧侶の重源が中国（宋）の進んだ建築技術を導入しました。これは「大仏様」と呼ばれ、太い柱や梁を組み合わせた、簡素ながらも質実剛健な構造が特徴です。選択肢にある寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式、元は鎌倉時代後半に日本に侵入してきた王朝であり、この時代の寺院再建の主流ではありません。
問7	答え 1 1872年に新橋・横浜間で日本初の鉄道が開通した後、順次、大阪・神戸間など西日本や地方都市へと路線が拡大された。	日本の近代化におけるインフラ整備は、政治の中心地である東京（新橋）とその玄関口である横浜の間から始まりました。この鉄道開通は文明開化を象徴する出来事であり、その後、経済の拠点であった関西圏（大阪・神戸間）へ、さらに私鉄の発展とともに日本全国へと鉄道網が張り巡らされていきました。このように、新しい技術が特定の拠点（東日本）から順次全国へと広がったことは、近代化の重要な特徴です。
問8	答え 1 王の宮殿は純金でできており、屋根や床も金でふかかれているほど豊かな島国であると紹介された	マルコ・ポーロは実際に日本を訪れたわけではありませんが、滞在先の元で聞いた噂をもとに、日本（ジパング）を莫大な金が産出される「黄金の国」として描写しました。この伝説的な記述は、後にコロンブスが大西洋を渡ってアジアを目指す動機の一つになったと言われていています。選択肢にある宗教改革や鉄砲伝来、ローマ帝国の分裂などは、時代背景や地域が異なる出来事です。
問9	答え 1 東大寺南大門	鎌倉時代、源平の争乱で焼失した東大寺の復興が進められました。僧の重源（ちょうげん）が勸進（寄付を募る活動）を行い、中国の宋から伝わった「大仏様（だいぶつよう）」という建築様式を取り入れて再建されたのが東大寺南大門です。この時期の文化は、新しく台頭した武士の気風を反映し、力強く質実剛健な特徴を持っています。
問10	答え 1 対立した弟の源義経を捕らえることを名目として設置し、守護は国ごとに置かれて軍事や警察の役割を、地頭は荘園などに置かれて年貢の徴収などの役割を担った。	1185年、源頼朝は対立した弟の義経を追捕するという口実で、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。これにより、幕府の支配力が全国の公領や荘園に及ぶようになり、武士による土地支配の基盤が築かれました。守護は主に国単位での軍事・警察権、地頭は土地ごとの管理権や徴税権を行使しました。
問11	答え 1 守護	源頼朝は、弟の義経を捕らえることを名目に、朝廷から「守護」と「地頭」を設置する権利を認められました。守護は令制国（国）ごとに1人ずつ置かれ、主に大犯三箇条と呼ばれる軍事・警察権を行使しました。これに対し、地頭は荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を担いました。国司や郡司は、律令制度に基づいて朝廷から任命された地方官であり、幕府が設置したものではありません。
問12	答え 1 北条時宗	13世紀、モンゴル帝国の圧力に対し、毅然とした態度で防衛を主導したのが第8代執権の北条時宗です。彼は文永の役（1274年）と弘安の役（1281年）の2度にわたって御家人を動員し、博多湾に石築地（防塁）を築かせるなどして元軍の侵攻を阻みました。選択肢にある北条時時は、日本初の武家法である「御成敗式目」を制定した第3代執権であり、混同に注意が必要です。
問13	答え 1 一遍	鎌倉新仏教の一つである時宗を開いた人物についての問いです。一遍は特定の寺院に留まらず、全国各地を遍歴して布教したため「遊行上人（ゆぎょうしょうにん）」とも呼ばれました。踊り念仏は、念仏の喜びを身体で表現するものであり、当時の民衆の間で爆発的に流行しました。